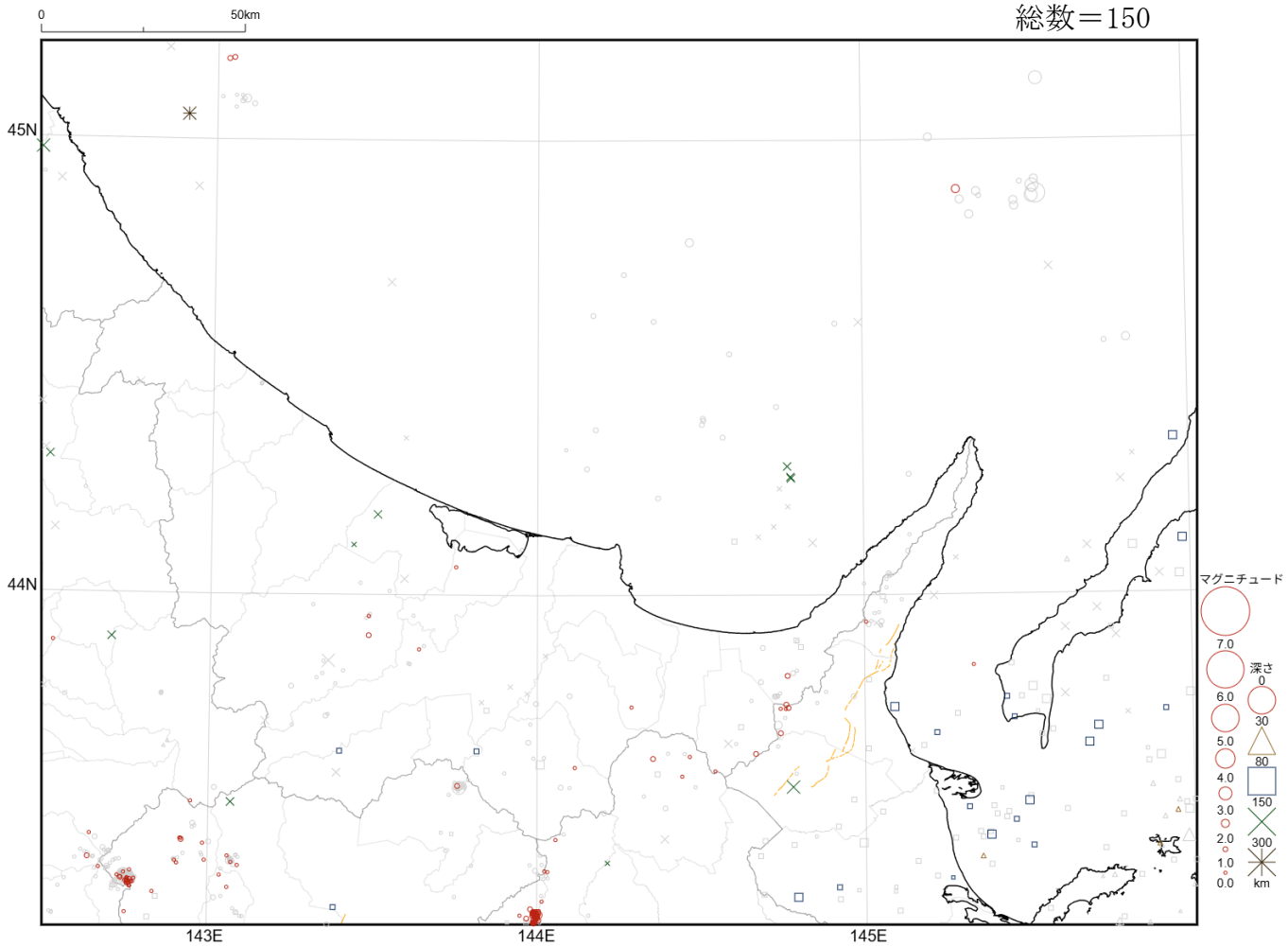
網走・北見・紋別地方の地震活動図

2026年10月

網走地方気象台

震央分布図



・図中橙色の線は、地震調査研究推進本部が地震発生可能性の長期的な確率評価を行った主要活断層を表します。
・過去の地震と比較するため、前３ヶ月（今期間を含まない）の震央を灰色のシンボルで表します。
・本資料中の地図の作成にあたっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号平29情使、第798号）。

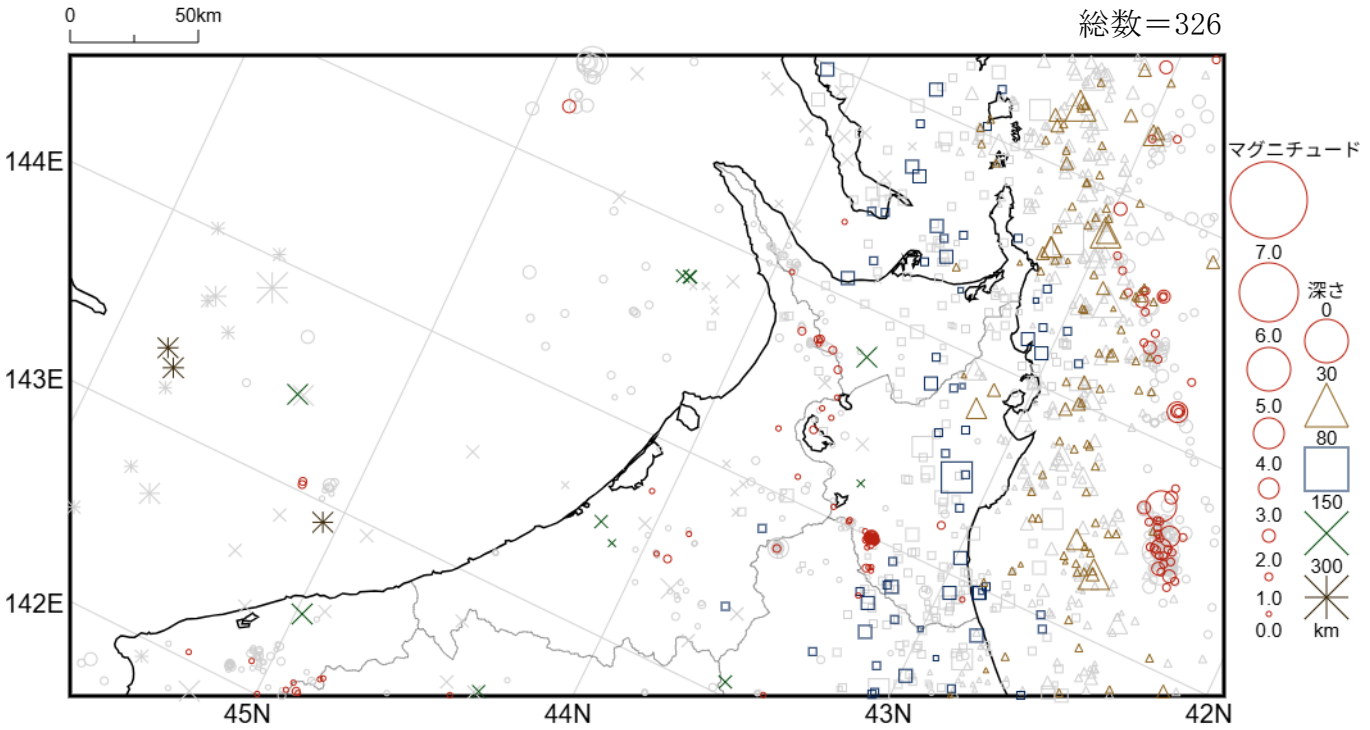
地震概況（2026年10月）

この期間、網走・北見・紋別地方の震度観測点で震度１以上を観測した地震はありませんでした（９月は１回）。

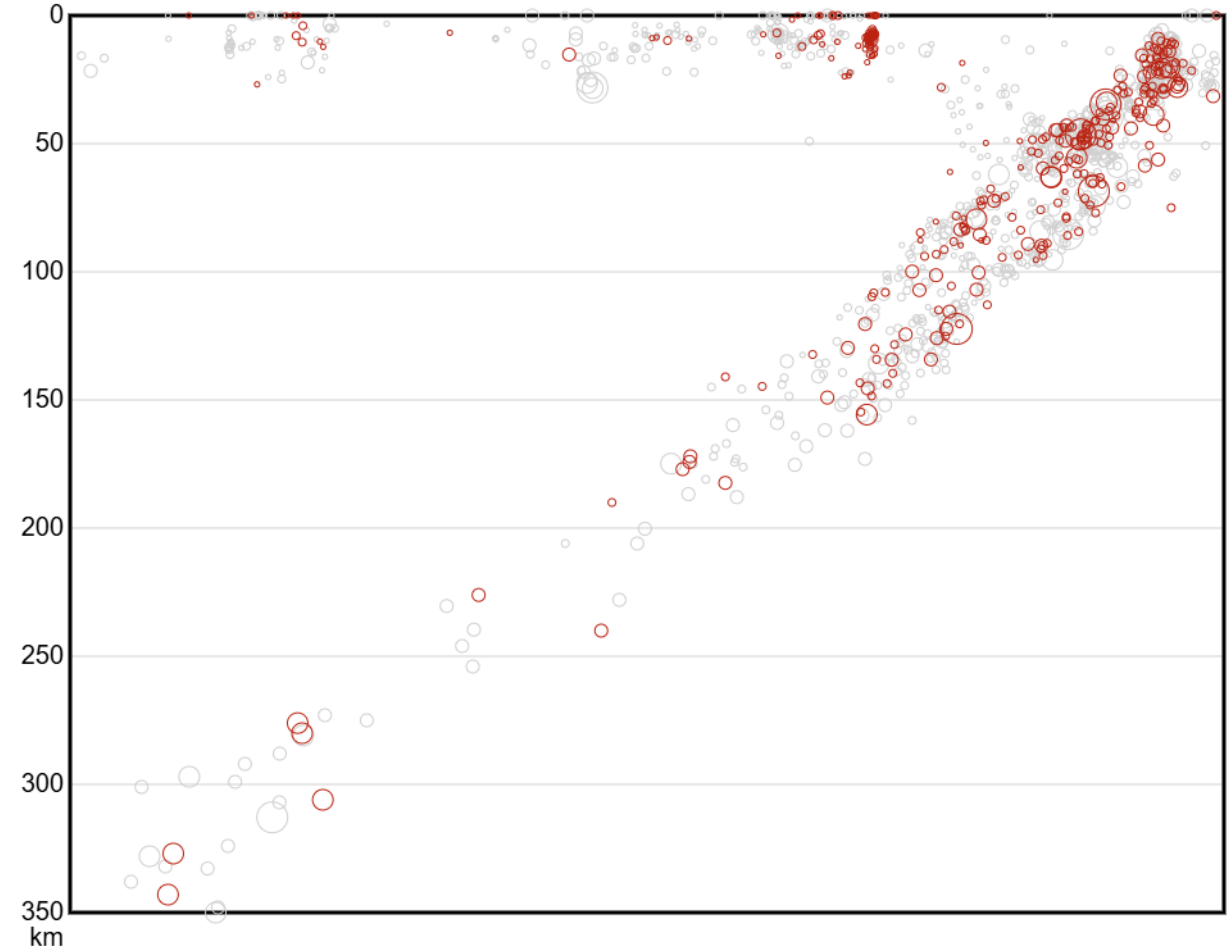
この活動図は、網走地方気象台のホームページに掲載しています。
https://www.data.jma.go.jp/abashiri/
この資料に関する問い合わせ先　網走地方気象台　TEL　0152-43-4349

2026年10月

震央分布図



断面図

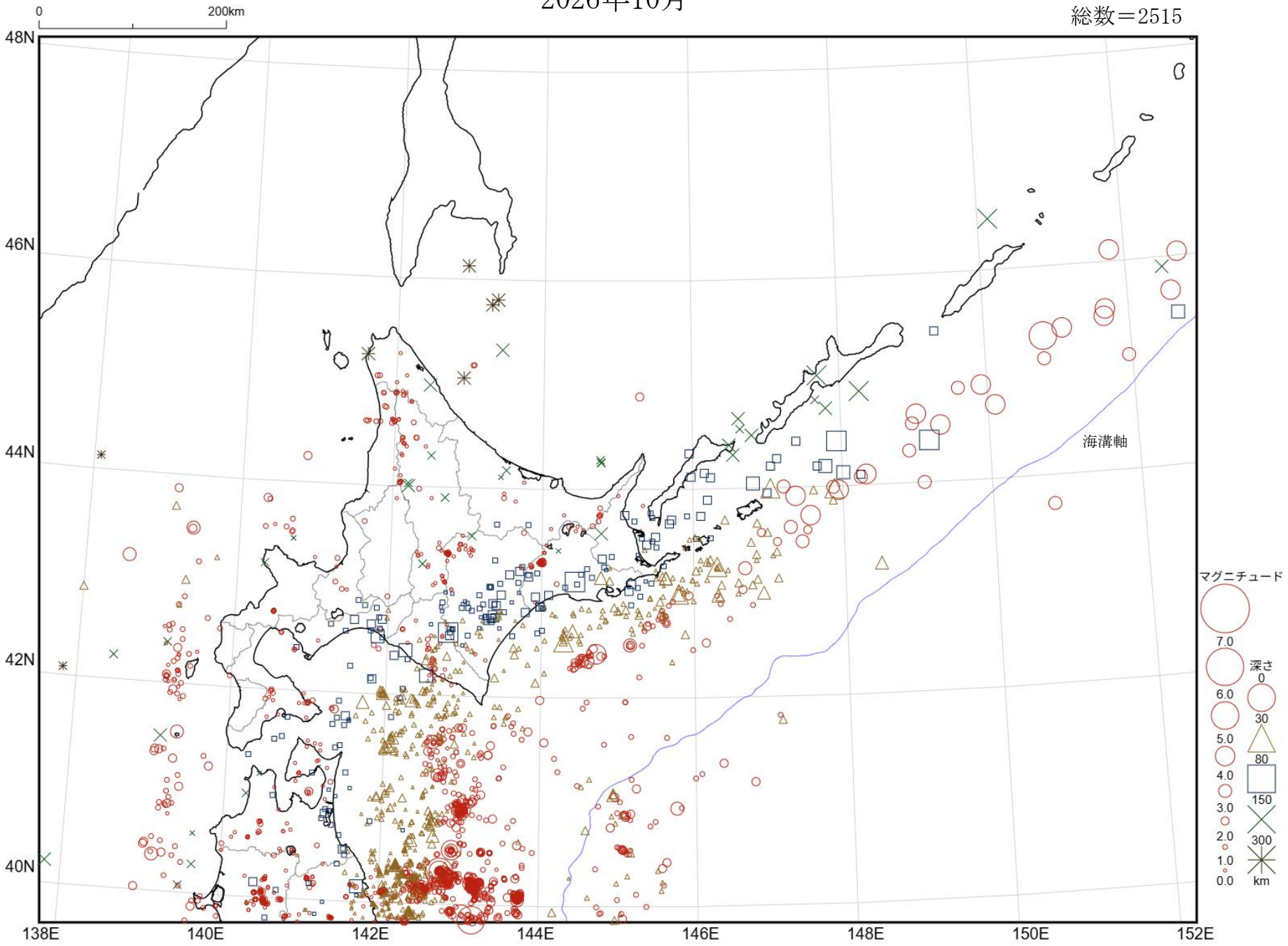


北海道の地震活動図

震央分布図

2026年10月

総数＝2515



本資料の利用にあたって

・本資料の震源要素及び震度データは暫定値であり、データは後日変更することがあります。
・本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを使用しています。また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、2025年トカラ列島近海における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（平島、小宝島）、EarthScope Consortium の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

【防災メモ】
～陸域の浅い地震～

地球の表面は十数枚の巨大な板状の岩盤（プレート）で覆われており、それぞれ別々の方向に年間数cmの速度で移動しています。

日本列島周辺では、複数のプレートがぶつかり合うため、大きな力がかかり岩盤にひずみが蓄えられます（図１）。そのひずみが限界に達したとき、岩盤が急速にずれ動きます。これが地震です。

地震は、海溝沿いのプレート境界や海のプレート内部で発生する「海溝型地震」のほか、陸域の浅い所（深さ約 20km より浅い所）でも発生します。

これを「陸域の浅い地震」と呼びます（図２）。

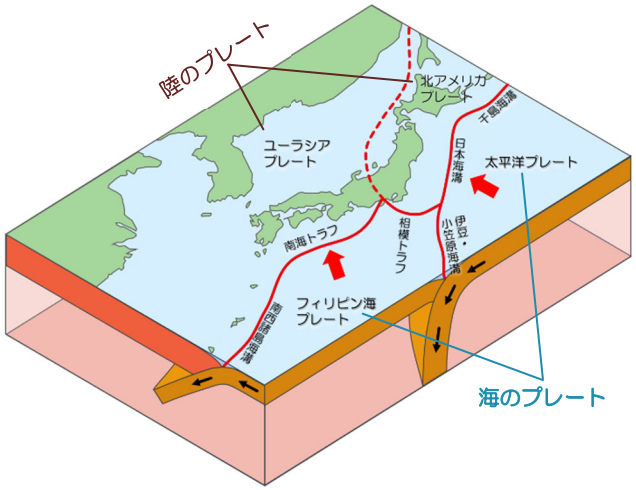


図１　日本列島周辺のプレート

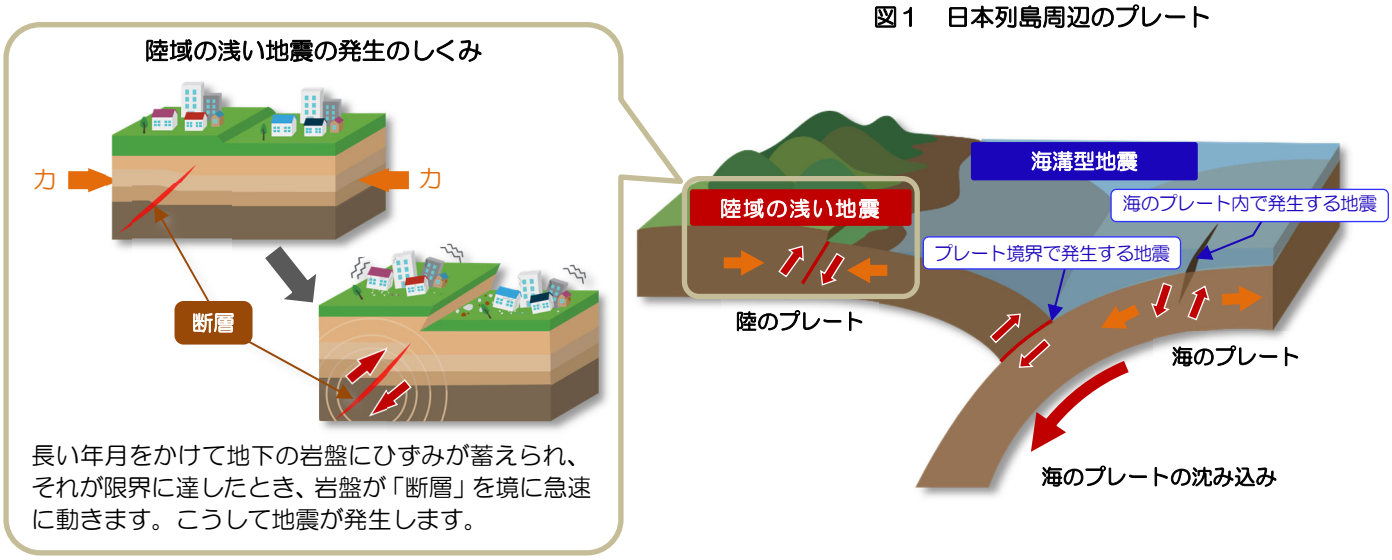


図２　日本列島周辺で発生する地震のタイプ

「陸域の浅い地震」は、海溝付近で発生する巨大地震と比べると規模が小さいことが一般的です。しかし、地震が発生する場所が浅い場合には揺れが大きくなりやすく、そこに人が住んでいると、マグニチュード５～６程度の地震であっても大きな被害をもたらすことがあります。

例えば、「平成 30 年北海道胆振東部地震」はマグニチュード 6.7 と、「平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震」のマグニチュード 9.0 に比べて地震のエネルギーは 2800 分の１でしたが、最大震度は同じ震度７を観測しました。この強い揺れで、大規模な土砂崩れにより多くの人命が失われ、また、強い地震動や地盤の液状化による住家倒壊などの大きな被害が生じ、北海道内のブラックアウト（大規模停電）をも引き起こしました。

地震はいつ起きるかわかりません。陸域の浅い地震など震源に近い地域では、緊急地震速報が間に合わず、発表前に強い揺れに見舞われることもあります。突然の揺れに備えて日頃から家具の固定や身の安全を図る行動の確認をしておきましょう。